

学園通信

2023.3
Vol.12



学校法人 名古屋電気学園

愛知工業大学

愛知工業大学名電高等学校

愛知工業大学名電中学校

愛知工業大学情報電子専門学校



|| 巻頭特集 || P01

学園創立110周年
その歴史を振り返る

|| 巻頭特集 || P03

本学八草キャンパスで
第5回工大サミットを開催!



学園創立110周年 その歴史を振り返る

卒業の季節を迎えました。月が替われれば、入学式です。いくつもの別れと出会いを重ねながら、名古屋電気学園は創立から111年の時を刻もうとしています。動乱・戦火の時代を挟んで、高度経済成長期から平成、令和へ。学園の発展とともに、先人がたどった努力の道筋を振り返ります。

大正 昭和前期 (1912～1945)

わが国が近代化の道を歩み始めるころ、創立者後藤喬三郎は工業化社会の到来を予測し、大正元年（1912年）9月、名古屋市中区矢場町の民家を借りて名古屋電気学講習所を創設。12月には学校名を私立名古屋電気学校とし、本格的なスタートを切ることになりました。

大正14年1月、喬三郎の逝去に伴って後藤鉦二が校主を継承。経済の好転と電気事業の躍進に伴い、学校の基盤ができていきました。昭和16年12月、太平洋戦争の火ぶたが切られ、昭和20年3月の空襲で新栄町校舎を焼失。若水校舎は被爆にもかかわらず、教職員、生徒らの必死の消火活動により炎上を免れました。学校当局の不退転の信念と生徒たちの母校愛により、学校としての礎を築いていきました。

昭和 中～後期 (1945～1989)

終戦後、一致団結して授業再開へ向けての活動を始めました。昭和22年に名古屋電気中学校、昭和24年に名古屋電気高等学校が開校。高度経済成長期、学園も次々と積極的な展開を図りました。昭和29年、短期大学を開校し、昭和34年には中部地方初の工科系大学となる名古屋電気大学を設立（翌年、愛知工業大学と名称変更）。昭和39年から八千草台（八草キャンパス）への移転計画がスタートします。

昭和47年1月、学園の半世紀を支えた後藤鉦二が逝去。文武両道を重んじる鉦二は昭和46年、愛知県体育館で世界卓球選手権大会が開催された際、当時国交のなかった中国に大会への参加を要請し、これがきっかけとなり日中の国交が回復しました。いわゆるピンポン外交です。

後藤淳が遺志を継いだ学園は、大学機能のすべてを移転した八草キャンパスに最新鋭の機器を導入し、工科系大学としての教育環境を高めるとともに、研究施設、福利厚生施設の充実に力を注ぎました。また、のちの中国・東南大学となる南京工学院との姉妹校提携を足掛かりに海外からの研究員受け入れ態勢も充実させ、国際的な交流にも力を注ぐこととなりました。



訪中し周恩来首相と握手する後藤鉦二理事長

八千草台修設式ゲート

若水校地の大学本館全景

「名古屋電気大学」認可設置内定速報

初代理事長・後藤鉦二

1916年名古屋電気学校

創立者・後藤喬三郎



昭和63年、スーパーコンピュータCRAY導入



昭和58年に完成した葵和会館



完成当時の鉦徳館



第2代理事長・後藤淳



若水校舎正門



電気実験

平成 令和 (1989～)

平成4年、ネットワークやマルチメディアの教育に特化した愛知工業大学情報電子専門学校を開校。中学、高校、大学の一貫教育が完成した名古屋電気学園は、専門学校も含めた工科系総合学園となりました。防災、環境問題に対応すべく、大学八草キャンパスに耐震実験センター（平成11年）、地域防災研究センター（平成17年）、エコ電力研究センター（平成19年）を開所。平成17年に開催された愛知万博では瀬戸会場用地として学園の土地を提供したほか、21世紀万博大学も開校し成功を収めました。

情報化社会、グローバル化に向けた改革を推し進め、世界をリードする人材を育てるために、大学にさらなる学科を新設し、名古屋市内に本山キャンパス（平成17年）、自由ヶ丘キャンパス（平成22年）を開校。さらに高校に新校舎（平成13年）、男女共学を開始（平成14年）した中学に中高一貫コース新校舎（平成21年）が完成しました。平成24年の創立100周年（平成25年映画「JOY」など記念事業）を経て、平成28年、第3代理事長に後藤泰之が就任。教育機関としての使命を果たすべく、施設・設備の拡充に努めながら社会の要請にこたえる教育を進めています。

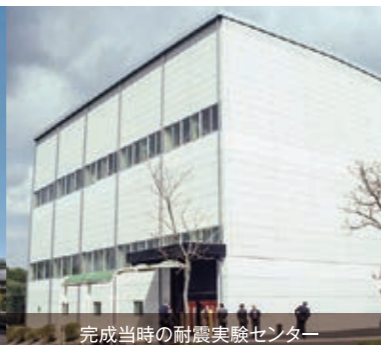
「自由」「愛」「正義」。「誠実」「勤勉」。時代がどのように変わろうと、基盤である建学の精神は変わりません。豊かな人間性と創造性にあふれた人材を育てるため、名古屋電気学園は新たな歴史へパトンをつないでいきます。



現理事長・後藤泰之



自由ヶ丘キャンパス



完成当時の耐震実験センター



愛知工業大学情報電子専門学校



「21世紀★万博大学」開学



南京工学院との姉妹校提携調印



総合技術研究所開所式

大学八草キャンパスで 第5回工大サミットを開催！

本学を含む理工系9大学（愛知工業大学、大阪工業大学、神奈川工業大学、芝浦工業大学、東北工業大学、広島工業大学、福井工業大学、福岡工業大学、北海道科学大学）による「第5回工大サミット」（文部科学省後援）が12月3日、大学八草キャンパス愛和会館講堂で開催されました。

「未来を創造する理工系人材の育成」を テーマに450人※が参加

※オンライン視聴を含む

後藤泰之学長、文部科学省高等教育局専門教育課の村上寛和係長の挨拶によるオープニングセッションに続き、第1部として、「自治体・地域が抱える課題解決に向けて工業大学ができること」をテーマに、各大学の学長・学生が順にプレゼンテーションを行いました。本学は、後藤学長が「学生チャレンジプロジェクト」「学防（まなぼう）ラボ」「地域連携スタッフ」といった人材育成の取り組みなどを紹介し、学生プレゼンテーションでは、瀬戸市との大学コンソーシアムセットに参加し、学生シェアハウスとして旧旅館「松千代館」に住み込む大学院博士前期課程2年の平岩拓真さんらの地域再生に向けた活動を報告しました。

全プレゼンテーション終了後、広島県宮島の町家の保存と活用をテーマに各大学の学生が取り組んだ工大サミット連携PBL（問題解決型学習）の成果発表が行われました。



プレゼンテーションを行う平岩拓真さん

開会の挨拶をする後藤泰之学長



学長パネルディスカッション

講演する井戸大介氏

第2部では、トヨタ自動車のコンセプトカー「LQ」の開発責任者である井戸大介氏が「TOYOTA LQの開発」と題して講演しました。LQは、人工知能や自動運転など、人に寄り添う新しいテクノロジーにより「新しい時代の愛車」を具現化したコンセプトカーです。井戸氏は、LQの技術的な訴求点として、先進的なデザインや自動運転、AIEEジェントについて解説したほか、参加者に向けて「どんなことでも構わないので得意な領域をとことん突き詰める」ことなどを呼び掛けました。そして、講演を「愛車と呼んでもらうためには、最終的にお客様にとっての『記憶に残る一瞬』をつくりあげること」の言葉で締めくくりました。井戸氏の講演を受け、「新しいアイデアを出すことができる」「組み合わせ・コラボレーションができる」「グローバル環境で活躍できる」人材の育成をテーマに、学長パネルディスカッションで活発に意見交換しました。

工大サミットは、工業立国を支える人材育成に対する工科系大学としての使命と、ポータリティの進展する世の中で、イノベーションを創出し、グローバルな環境で活躍できる人材育成を共通課題とし、各大学の人的・物的資源の情報共有と、相互の連携・協力による理工系高等教育のさらなる活性化を目指して、2017年に始まりました。次年度の「第6回工大サミット」は東北工業大学での開催が決まり、渡邊浩文学長がクロージングセッションで挨拶しました。



学園だより

創立110周年 記念式典

名古屋電気学園の創立110周年記念式典は11月11日、学園の淳和記念館（名古屋千種区若水3）で、感染症防止対策として出席者を限定して開催されました。後藤泰之理事長は式辞で、わが国の高等教育が進む方向を受け「本学園の特色である情報教育、デジタル教育の充実をさらに進めていく」と述べ、協

力を呼び掛けました。45年、35年、25年、15年の永年勤続者が表彰され、受賞者を代表して大学基礎教育センターの隅山孝夫教授（勤続45年）が、「理事長先生や周りの方々の支援があり、良い学生たちとの出会いがあった。良い学園に勤められ感謝しています」と謝辞を述べました。この後、学園創立110周年を記念して、第70回全日本吹奏楽コンクールで金賞を受賞した高校吹奏楽部が、「森の贈り物」など4曲を祝賀演奏しました。

永年勤続表彰の皆さん

- 勤続45年** 1人
隅山孝夫 大学基礎教育センター教授
- 勤続35年** 3人
曾我部博之 大学副学長（建築学科教授）
磯部哲也 大学基礎教育センター教授
奥田好弘 大学工学研究科・工学部事務室事務長
- 勤続25年** 9人
雪田和人 大学電気学科教授
鈴木森晶 大学土木工学科教授
中村栄治 大学情報科学科教授
平松誠治 大学機械学科講師
川越英司 高校教諭
舟橋雄一 高校教諭
中山貴子 専門学校教授
足立由美子 大学研究支援本部事務室課長補佐
中野正博 専門学校事務部課長補佐
- 勤続15年** 4人
神谷恵輔 大学機械学科教授
矢野良和 大学電気学科准教授
野崎敏広 高校教諭
沼田敏明 中学教諭



永年勤続表彰の皆さん

しめやかに 物故者法要

創立110周年記念式典に続き、会場を覚王山日泰寺に移して学園の物故者法要がしめやかに営まれました。この1年間に亡くなられた方々を含む物故者のご遺族、祭主の後藤泰之理事長をはじめ学園関係者が参列しました。読経が流れる中、後藤理事長を先頭に焼香し、物故者の冥福を祈りました。終わりにあたり、後藤理事長が「苦しい時に頑張ってこられた先人の方々の思いを胸に、われわれ一同、ますますの発展に努力してまいります」と挨拶しました。この後、近くの学園墓地でもお参りが行われました。



故人の冥福をお祈りした物故者法要



名古屋電気学園だより



前列中央の後藤理事長を挟み、北川氏(右)と森本氏(左)ら記念撮影する皆さん

北川祐介氏と 森本耕平氏に 後藤鉦二賞を授与

後藤鉦二先生奨学記念会(会長・後藤泰之理事長)は、本年度の後藤鉦二賞を、愛知工業大学名電高校教諭・バレーボール

部監督の北川祐介氏と、愛知工業大学クラブ活動支援グループ事務職員・卓球部男子監督の森本耕平氏に授与しました。ともに学園の卒業生である北川氏と森本氏は、同賞の93人目、94人目の受賞者となります。北川氏は名電高校を卒業後、亜細亜大学を経てV1プレミアリーグを代表する選手として活躍しました。2010年度から名電高校保健体育科教諭・バレーボール部監督となり、選手一人ひとりの個性や能力を生かすチーム作りで、全国高校総体出場8回、春高バレー出場5回などの実績を上げています。2022年秋には栃木国体バレーボール少年男子監督として、愛知県を準優勝に導きました。森本氏は愛知工業大学附属中

学、名電高校から愛知工業大学まで一貫して卓球に取り組み、大学時代には4年主将として全日本大学総合卓球選手権大会(団体の部)優勝に貢献しました。実業団を経て2018年から学園に奉職、大学卓球部監督として指導に当たり、全国大会以上優勝に導いているほか、WTT国際大会でも2度の優勝、世界卓球選手権日本代表を送り出しています。授与式は1月23日、愛知工業大学名電中学校の会議室で行われました。出席者全員で後藤鉦二先生のご遺影に黙とうを捧げた後、後藤泰之理事長から賞状と賞牌などの記念品が贈られました。後藤理事長は、コロナ禍の中でも結果を残した両氏の功績などにふれ「情熱を持って指導に当たり、さらなる高みを目指してほしい」とお祝いの言葉をかけました。これにこたえ、両氏は「部活動の指導に当たる多くの先生方の代表として賞をいただいたと思っています。学校内から応援される部活動を第一に目指して今後も頑張っていきます」(北川氏)、「5月の世界卓球選手権に大学卓球部から一人出場が決まっております。メダルを期待しています。パリ五輪代表選考レースでも選手を

全力でサポートします」(森本氏)などと謝辞を述べました。後藤すゞ子先生奨学金を交付
学園が制定する「後藤すゞ子先生奨学金」が12月13日、大学情報科学部の学生に交付されました。奨学金は、元学園長の後藤すゞ子先生の遺志に基づいて設けられ、親の死去など思いがけない理由で学資の負担が難しくなった設置校の学生、生徒が学業を継続できるよう支援するものです。この日は八草キャンパス本部棟で交付があり、後藤泰之理事長が奨学金の趣旨を説明して「しっかり勉強を続けてほしい」と激励しました。

●愛工大ノード大会
ワールドリーグ
・飛翔sky
・meidenカチューシャ
・Freedom Cry

●日本リーグ
・メイデン牧場
・名電工房
・名電中1B8

●東海ブロック大会
ワールドリーグ
①meidenカチューシャ(名電高2年松永育也・山下勝央・大西禮生)
②飛翔sky
③meiden両眼喰男

●日本リーグ
①Spica
②so1211
③サクラ

世界大会への選抜を目的とする「ワールドリーグ」と、普及を目的とする「日本リーグ」があり、愛工大ノード大会に40チーム、東海ブロック大会に32チームが参加しました。車型の自律走行ロボットを指定のライン上で走らせながら坂路などの障害を走破し、要救助者を助けに向かいました。2回ずつの競技の合計で得点などを競い、名電高校と名電中学のチームも優秀な成績を収めました。東海ブロック大会の成績上位者は、3月24〜26日に名古屋国際展示場(ポルトメッセなごや)で開かれるロボカップジュニア・ジャパンオープン2023名古屋に出場します。両大会の各リーグ1〜3位は次の通りです。

令和5年仕事始め 後藤泰之理事長が 年頭の挨拶

令和5年の仕事始めにあたり、後藤泰之理事長は1月6日、八草キャンパスと若水キャンパス(中学・高校)で年頭の挨拶をしました。コロナ禍が続く中で教職員の対応にあらためて感謝を述べたうえで、創立111周年を迎える学園の建学の精神などを振り返りながら、変化する社会への迅速な対応を求めました。政府の教育未来創造会議第一次提言などを受け、情報教育のさらなる拡充について述べたほか、若水キャンパスでは各クラブの全国大会での活躍にも触れて激励



年頭の挨拶をする後藤泰之理事長=八草キャンパスで

学園と設置校挙げて 防災訓練

学園と全設置校4校を挙げての防災訓練が、11月16日に繰り広げられました。訓練は午前11時44分55秒、紀伊半島沖を震源とするM8.5の東海・東南海連動型巨大地震が発生したとの想定で始まり、緊急地震速報のサイレンとともに「地震が来ます」の放送が各設置校に流れ、授業中の学生や生徒たちは机の下に隠れるなど退避行動をとった後、一斉に避難場所に向かいました。八草キャンパスでは本部棟2階に対策本部を置き、学生・教職員の安全確保と二次災害の防止に努めました。合宿寮2号棟1階と鉦徳館1階で火

ました。「今後も社会のニーズに対応した実践的な教育を推進するため、大学を中心とした設置校間の一貫教育をより一層推進していきたい」と、教育機関として果たすべき社会的使命に向け教職員の結束を呼び掛けました。専門学校でも同日、飯吉僚校長が年頭の挨拶をしました。

設置校入試

今季の入試は、大学が前期日程A方式1月27・28日、同



八草キャンパスでは教職員・学生がサッカー場に避難

災が発生したほか、5号館実験棟で学生が意識不明となり、図書館3階と7号館2階でも学生が負傷したとの想定で、担当者らが初期消火や救出救護に取り組みました。設置校の名電高校、名電中学校、専門学校でも同時刻に運動して訓練を行いました。

M方式(マークセンス式)29日の3日連続で行われました。3学部7学科14専攻の募集人員1315人に対し、志願者は5055人でした。八草・自由ヶ丘両キャンパスをはじめ、豊橋、一宮、岐阜、四日市、津、浜松、静岡、富山、金沢、松本、岡山、福岡の各地方会場で平穩に日程を終了しました。高校は1月16日推薦入試・帰国生特別入試・トップエッジ入試・トップアスリート入試、1月20日一般入試、中学は1月21日奨学生A・B入試、1月22日一般入試の日程で行われました。



問題配布を受ける大学の受験生

後藤杯卓球大会開催

第52回後藤杯卓球選手権大会(名古屋オープン)カデット・ホープス・カブ種目が1月21、22両日、岡崎市の岡崎中央総合公園総合体育館で開かれました。米中、日中の国交正常化につながるピンポン外交(1971年)に尽力した故後藤鉦二先生、その遺志を継いで発展させた故後藤淳先生に敬意を表して開催される大会に、今年も全国から約1600人が参加しました。中2以下のカデット、小6以下のホープス、小4以下のカブの各部男女(いずれもシングルス)に分かれ、世界で活躍する選手を目標に、広い会場をいっぱいに使って2日間の熱戦を繰り広げました。



熱戦を繰り広げた後藤杯卓球選手権大会

最優秀賞

- 【自然科学部門】岐阜県立多治見高校
「クロバネキノコバエ類の色の嗜好性について」
- 【ものづくり部門】愛知県立名古屋西高校
「クレーンゲーム製作」
- 【社会科学・地域づくり部門】静岡県立焼津中央高校
「SDGsを身近に楽しむ～海洋ゴミのアップサイクル～」

優秀賞

- 【自然科学部門】岐阜県立不破高校「不破高校に現れるニホンジカの1年間の記録～繁殖に伴う変化について～」/静岡県立高校「粘菌はイモチ病を感知できるのか!？」/愛知県立岡崎高校「紙の構造体で反発係数をコントロールする」
- 【ものづくり部門】愛知県立時習館高校「化学反応を用いたチョコレートの再生利用」/愛知県立瑞陵高校「ドロデンチュウ1.5ボルトだ!!」/岐阜県立武義高校「ナンキンハゼ種子からロウソクを作りたい～植物油の性質を探る～」
- 【社会科学・地域づくり部門】長野県松本深志高校「セルフまちあるき」/愛知県立一宮高校(A)「ビオトープを生まれ変わらせよう大作戦～計画編～」/愛知県立一宮高校(B)「アクアポニックスの効果の検証と家庭普及～FOR SDGs～」

AI-Tサイエンス大賞 54テーマの成果発表

第21回 AI-Tサイエンス大賞の発表・審査が12月17日、八草キャンパスで行われました。科学技術立国を支える若者の育成を目的とする研究発表会で、愛知、岐阜、三重、静岡、長野各県の高校生から論文・作品を募集。「自然科学」「ものづくり」「社会科学・地域づくり」の3部門で計54テーマの発表がありました。

部門別にステージ発表があり、チームを組んだ生徒たちが各テーマ5分間の持ち時間でプレゼンテーションを行いました。



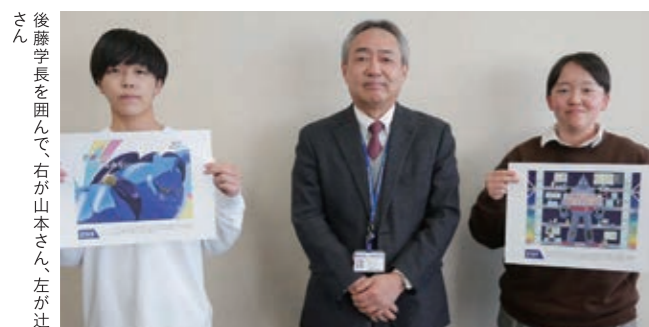
パネル展示発表で質問に答える高校生

続いて1号館とAI-Tプラザでパネル展示発表し、さらに詳しく説明しました。パネル展示の会場では参加者が質問し合い、交流と理解を深めました。

学生から募集の看板デザイン決まる

八草キャンパス最寄り駅のリニモ八草駅構内と愛知環状鉄道八草駅ホームに設置する大学常設看板のデザインを今年度も学

内田臣一教授(自然科学部門)、津田紀生教授(ものづくり部門)、後藤時政教授(社会科学・地域づくり部門)ら本学の専門教員27人が委員となって発表の独創性や工夫、コミュニケーション力などを審査しました。



後藤学長を囲んで、右が山本さん、左が辻さん

帰宅困難者対策の備蓄品を搬入

豊田市は10月27日、ジブリパーク開園に向けた災害時の帰



山本さんのデザインは、本学の学生たちの止められない探求心を、鉄人28号の開発シーンとして表現しました。「各専攻の得意な技術を結集すれば鉄人28号を開発できる」と思い、デザインに取り入れられました」と話しています。

生から募集し、審査の結果、機械学科4年の山本彩未さんの作品を選びました。看板は、愛工大のイメージキャラクター「鉄人28号」を用いて、キャッチコピーの「探求心は止められない」を視覚的に表現するものです。10点の力作が集まった中から、学生の投票と学内会議によって採用作を決めました。看板採用デザインのほか、特別賞として機械学科3年の辻大輝さんの作品を選びました。

宅困難者対策として、飲料水など約1200人分の備蓄品を八草キャンパス鉦徳館(体育館)に搬入しました。本学との防災・減災に関する協定に基づき、市内大学への備蓄はこれが初めてとなります。

11月に長久手市に開園するジブリパークには公共交通機関を利用した来園者が多く予想され、大規模災害などの発生時にはリニモ・愛知環状鉄道の八草駅周辺での帰宅困難者対策が必要となります。このため、近隣の避難場所となっている八草キャンパスに飲料水などを備蓄します。

新4号館安全祈願祭

情報科学部の新しい拠点となる八草キャンパス新4号館の新築工事安全祈願祭が10月26日、現地で営われました。学園と設計・施工にあたる株式会社青島設計・清水建設株式会社の関係者が出席し、地鎮之儀などの神事で工事の安全を祈願しました。神事の終わりにあたり、後藤泰之理事長が「最先端の研究の場として、また情報教



地鎮之儀で工事の安全を祈願する後藤泰之理事長

「愛工大テクノフェア2022」を開催

本学の研究ポテンシャルを一堂に集めて公開する「愛工大テクノフェア2022」を11月18日、八草キャンパス1号館などで開催しました。

愛工大テクノフェアは、産業界・地域社会との交流と産学官連携研究の推進を目的に隔年で開催を続けています。今回も、大学院2研究科、大学3学部7学科14専攻、総合技術研究所、3研究センターなどの研究から生まれた技術シーズをブース展示し、講演会やロボットの研究ミュージアム施設紹介などを行いました。



講演する株式会社ジェイテクト取締役社長の佐藤和弘氏

1号館3階301教室で2つの特別講演があり、初めに株式会社ジェイテクト取締役社長の佐藤和弘氏が「ジェイテクトの目指す世界」と題して話をしました。2020年6月に社長に就任した佐藤氏は、厳しい経営状況を打開するため「リボーン」を宣言し、既成概念にとられない改革を推進。前身である光洋精工と豊田工機の「真の合併」を進める中、異な



多彩な技術シーズのブース展示

る事業領域で培った多くの要素技術を掛け合わせ、既存事業の柱を深化させるとともに新事業の発掘育成に取り組みできました。佐藤氏は、これから注目すべき分野として「自動車電動化対応」「ロボット事業への部品参入強化」「パワー半導体(SiC)製造装置参入」「福祉ビジネス」などを挙げ、目指す姿は「従業員が安心して働ける会社」と結びました。

続いて、本学情報科学部の中村栄治教授が「5Gドラッグ技術への期待と育成法」と題して講演し、鳴り物入り(ドラフト1位)で登場した5Gの実力について、支える技術の基本的な話から応用まで解説しました。

この後、同教室で工学部、経営学部の教員6人が技術シーズの話題を提供する講演があり、小塚晃透電気学科教授が「超音波を用いた非接触マニピュレーション技術」、福森健三応用化学科教授が「易リサイクル性高分子材料の高機能化」、神崎昌郎機械学科教授が「高温潤滑性を有するホウ素含有複合膜の創製」、渡邊康司土木工学科准教授が「地盤工学分野における基礎構造の研究開発」、巽信彦建築学学科講師が「大地震後における建築物の継続使用に関する研究」、羽田裕経経営学教科教授が「知財情報を活用したマーケティング・ツールの開発及び提案」と題して順次講演。企業関係者らが熱心に聴き入りました。



学内イベントや研究室の様子など愛知工業大学の様々な情報を発信しています。



YouTube
愛知工業大学の公式チャンネルもご覧ください。

411人が健脚競う 第42回愛工大駅伝大会

第42回愛工大駅伝大会は11月1日、八草キャンパス内コースに学生・教職員87チーム411人が参加して開かれました。赤堀良介教学センター副センター長の挨拶と選手宣誓の開会式に続き、参加者が「オープンコース」、「学生・教職員交流」、「謎解きをしながらの」、「学友会企画」、「選手権」の各部に分かれタイムを競いました。

大会を盛り上げるイベントとして、学生たちの駅伝関連動画作品を募集し、オンラインで配信しました。人気投票で優秀作品を選び、当日発表しました。



オープンコースの部のスタート

駅伝大会の各部門3位までの成績は次の通りです。

オープンコースの部	学生・教職員交流の部
優勝/ハンニヤバル	優勝/河路部
準優勝/河路研マラソンクラブ2022	準優勝/競技スキー部残り物と監督
3位/太田	3位/チーム原田
学友会企画の部	選手権の部
優勝/チームA	優勝/競技スキー部
準優勝/プラトゥーン	準優勝/セネガルの助っ人外国人
3位/jamおじ4s	3位/ぶーさんず

建設業の魅力と やりがいを学ぶ

建設業の魅力・やりがいを若い世代に正しく伝えようという講座が、10月15日に八草キャンパスで繰り広げられました。

建設業の若手経営者らでつくる中部建設青年会議の新建設産業創造委員会とコラボする講座で、9回目。就職活動を控えた土木工学科の3年生が受

沖縄海洋ロボットコンペティションで フリースタイル部門最優秀賞

沖縄県宜野湾市で11月18、19日に開催された第8回沖縄海洋ロボットコンペティションで、本学がフリースタイル部門最優秀賞を受賞しました。

同コンペティションに、本学は機械学科と電気学科の学部生・院生たちが、学生チャレンジプロジェクト「B・U・V（生体模倣水中ロボット）プロジェクト」（指導教員・内田敬久機械学科教授）として参加を続けています。今回は本学から5チームが参加した中、知的計測制御研究室（古橋秀夫教授）に所属する大学院博士前期課程2年の浅田拓末さんが手掛けた外骨格マンタ型ロボット「A-I-T-B-M-R-II」がフリースタイル部門最優秀賞に輝きました。インフラ点検や海底探索



フリースタイル部門最優秀賞の「AIT-BMR-II」



ROV部門で発表した「AIT-MSV」



参加した学部生・院生たち

などを目的に開発した機体で、マンタ型の遊泳と6足歩行が可能なメカニズムを持ちます。審査のプレゼンテーション（オンライン）で、コンセプトの発表や遊泳のデモンストレーション映像などが高い評価を受けました。

浅田さんは「参加できる最後の大会で特別な思いがあり、また多くの課題がありました。ロボットの設計・制御・制作では行動して初めて理解が深まることが多く、チームワークが大切です。ロボット研究ミュージアムでの経験を活かし、皆で協力して研究開発を進めることができた成果だと思います」と喜びを話しています。

一方、ROV (Remotely operated vehicle)・遠隔操作型無人潜水機部門で、本学はバイオミメ

講しました。

午前の座学で、桑島司・名四国道事務所長から中部圏の長期ビジョンなどについて話を聞いたほか、情報化（ICT）施工技術などへの理解を深めました。

午後は見学と実習がキャンパス北の瀬戸校地で行われ、学生たちはブルドーザ、タイヤローラ、バックホウなど最新の技術を搭載したICT建機を体験。VRによる現場危険体験などもあり、3次元データを活用した施工の実際を肌で学びました。



午後の見学・実習

学校防災シンポジウム 2022「大学と地域 防災」を開催

本学は12月11日、第7回となる学校防災シンポジウム2022「大学と地域防災」をオンラインで開催しました。68人の参加があり、地域防災研究センター長の横田崇教授が「大学と地域、ともに防災を考える」と題して基調講演した後、土木工学科の小池則満教授のコーディネートによりパネルディスカッションを行いました。

ディスカッションでは、「学生・大学と地域防災との結び方」をテーマに、岐阜大学、本学、岐阜聖徳学園大学の学生たちによるプレゼンテーションも行われました。本学からは、学生防災研究会「学防（まなぼう）ラボ」代表の松原みなみさん（大学院博士前期課程2年）が、これまでの活動内容や想いを紹介しました。最後に岐阜大学の小山真紀准教授から閉会の挨拶をいただきました。これらを通じて、大学・学生が地域防災に関わる意義や課題について、参加者と情報交換しながら考えることができました。

SDGs時代のお菓子 柿のタルトを販売

自由ヶ丘キャンパスのクッキングコミュニティサークルヒルズが、星が丘テラスの「星が丘菓マルシェ」と覚王山の「BASE COFFEE（ベースコーヒー）」とのコラボ・スイーツとして開発した柿のタルトを、11月19、20日に覚王山「GBASE COFFEE」で販売しました。

本学の学生チャレンジプロジェクト（SDGs時代のお菓子）の一環で、パートナーシップで目標を達成する（食品ロス無くす）取り組みを行いました。

熟成しきった柿はおいしく食べられるが商品とはならず、廃棄するのはもったいないことから、サークルのメンバーで商品のアイ



来場者の関心を集めた装着型ロボット

AIT わくわくワールド 2022を開催

本学の地域連携事業として10月1日、長久手市のイオンモール長久手で「AITわくわくワールド2022」を開催しました。

イオンモール長久手のSDGsの取り組みに協力し、4階イオンホールで午前の部と午後の部に分け、合わせて約1200人の親子らに、情報科学科の学生たちが制作したゲームを無料で体験してもらいました。東京ゲームショウ出品作品も多数出品して本学の魅力を伝え、喜ばれました。



自由ヶ丘キャンパスの サークル「ヒルズ」が パエリアふるまう

「消費期限が近づいた災害用備蓄食をおいしく食べる」ことを知ってもらおうと、自由ヶ丘キャンパスのクッキングコミュニティサークルヒルズは10月15日、豊田市循環型社会推進課と市の若手農業集団「夢農人」といっしょに、産直市場「おいでん市場」（同市元宮町）でパエリアを調理し提供しました。

食品ロス削減月間（10月）に合わせた呼びかけで、ヒルズから5人の学生たち（経営学科4人・情報科学科1人）が参加しました。炊かずに食べられるご飯であるアルファ米と、「夢農人」が提供したトマト、鶏肉、ニンニクを用いて約40食を調理し、訪れた市民に無料で提供しました。

この活動は本学の学生チャレンジプロジェクトの一環でもあり、今後も豊田市循環型社会推進課、夢農人と一緒に活動が続いていきます。

進路実現に向けた
きめ細やかな支援

学生一人ひとりが納得のいく希望進路を実現できるよう支援するのがキャリアセンターの役割です。就職活動はもちろん、インターンシップや資格取得のサポート拠点としてきめ細やかな支援を展開しています。就活準備期にはキャリアセンタースタッフによるガイダンス、外部講師による就職力向上を目的とした講座を実施するほか、就活本番では個々の希望と進捗状況に合わせて、個別対応に切り替えたサポートを展開しています。書類添削だけでなく経験と実績に富んだキャリアコンサルタントが模擬面接を行い、そのフィードバックを本番に活かします。内定取得がゴールではなく一人一人が就職活動を通して成長し、納得のいく形で社会に羽ばたいていくようこれからも就職担当教員とともに学生をサポートしてまいります。

■就職ガイダンス(4月・10月・1月)

■就職力向上講座

《履歴書作成》

- ①自分史作成&就活軸
- ②筆記試験対策(1)(2)
- ③自己PR&ガクチカ
- ④志望動機作成
- ⑤履歴書添削・アドバイス

《面接》

- ⑥座学で学ぶ面接基礎
- ⑦グループディスカッション実践
- ⑧面接実践演習
- ⑨企業採用担当者による集団模擬面接

《その他》

- ・女子学生対象メイクアップ講座
- ・就活マナー講座

■企業研究セミナー

- ・業界研究セミナー(愛知ブランド)
- ・DENSOグループ合同セミナー

■学内企業研究会

- ・愛名会企業研究会(800社/全3回)
- ・瑞若会企業研究会(200社超)
- ・自由ヶ丘企業研究会(24社)



マナー講座



愛知ブランド企業研究セミナー



愛名会発行の企業案内冊子
募集職種、OB情報、PRポイントなど。学部3年生・院1年生の自宅に配送しています。WEB版もあります。

愛工大の就活バイブル「就職ノート」
愛工大生の就活ポイントのすべてを掲載。困ったときに助けてくれる虎の巻です。

学内企業研究会レポート

学園の後援組織「愛名会」に加入する会員企業が出展する愛名会企業研究会が、10月(第1回)、11月(第2回)と2月(第3回)、八草キャンパス 鉦徳館(体育館)などで開催されました。今年度は計3回(延べ6日間)の分散開催となり、合わせて約800社が出展しました。

各日とも午前、午後の部に分けて実施され、第1回、第2回を合わせ、学部3年生と院1年生を中心に愛知工業大学情報電子専門学校を含む延べ3,196人の学生が参加しました。開会式で主催者を代表し、土橋繁樹愛名会事務局長らが挨拶し、入場時間になるとスーツ姿の学生たちが、感染症対策を講じた会場そして各企業ブースに足を運びました。

2021年度に就職した愛工大生1,068人のうち480人が愛名会企業に入社を決めるなど、この企業研究会は本学の高い就職率の基盤になっています。2024年卒の就活は、3月就職情報解禁、6月面接解禁という従来から大きく変わらないスケジュールとなりますが、キャリアセンターでは採用選考の早期化の動きが顕著であることから「学内企業研究会での出会いを有効に活用しつつ、安易な内定承諾をしないよう、業界・企業研究をしっかりと行い納得のいく決断をしてほしい」と学生たちに呼び掛けています。

また、瑞若会(大学同窓会)と愛名会が主催する瑞若会企業研究会も、2月21~22日(八草キャンパスAITプラザ)、2月24日(オンライン開催)の日程で開催されました。

第1回・第2回 愛名会企業研究会満足度



学生の意見

「ホームページには掲載されていない情報を知ることができたので参加してよかった」
「愛名会企業の中から気になる企業、受けてみたい企業が見つかった」
「まったく考えていなかった企業も実際に話を聞いて自分の視野の狭さに気づいた」



学生と就職担当教員



企業様と就職担当教員

鉦徳館で開催された第1回愛名会企業研究会



中学・高等学校ニュース

Senior High School & Junior High School NEWS

高校情報システム部
アプリが一般公開に

ペットロボットの「aibo」と遊ぶアプリを開発する高校生エンジニア体験(ソニー教育財団主催)に、高校情報システム部のチームが参加し、作品が最優秀の評価を受けて一般公開の栄誉に浴しています。



aiboと遊ぶアプリが高く評価された情報システム部の4人

aiboは、ソニーが開発した犬の外見を持つ自律型エンターテインメントロボット。現在発売されている新型は人工知能を搭載し、アマゾンウェブサービス(AWS)が提供するクラウドコンピューティングサービスを活用して「犬型ロボットから個性が育つ愛犬へ」と進化しています。高校生のエンジニア体験は、ソニー教育財団が2018年から実施。参加校はそれぞれ4人でチームを組み、ソニーグループのaibo開発チームの指導・助言を受けながら、アプリの企画・開発を体験します。高度な知識・技能を要求されるため、参加できるのは事前審査を通過した6校だけ。本校情報システム部は情報科学科3年の多田隆人さん、同2年の町田渉さん、穂田花林さん、渡邊晴美さんでチームを組み、aiboと一緒にスマホのすぐろくゲームを遊べるアプリ「aibo board(アイボード)」を開発しました。

aibo boardの遊び方は、スマホ上でサイコロを振ると

進んだマス目により「aibo」とハイタッチしよう」「aiboに甘噛みしてもらおう」などのタスクを指定されます。うまく実行できないと、aiboは「すねて横を向く」など、表情豊かに反応します。ゲームを終えるとaiboから感謝のメッセージカードがもらえ、それをコンプリートする楽しみもあります。生徒たちは「各種SNSから、aiboオーナーの皆さまの非常に深い、aibo愛を感じました。aiboもきっと感謝の気持ちをaiboオーナーの皆さまに伝えたい」と話しています。

最終プレゼンでは、開発部門の担当者や責任者らから、さまざまなアドバイスがもらえました。本校チームは、アプリの一般公開(今回は参加校中1校のみ)が決まっただけでなく、アマゾンウェブサービスジャパン合同会社からAWS賞も併せて授与され、「AWSのアーキテクトチャ」に関して、ベストプラクティス

に則って堅実に実装しきつていた」と高く評価されました。「この経験を生かし、今後とも将来の夢であるエンジニアを目指して努力したい」と夢を語る生徒たちに対し、情報システム部顧問の辰巳良美教諭は「かなりレベルの高い内容でしたが、日々部活動でプログラミング技術の習得に努めたことが役立ちました。一般公開されることで、ものづくりの感動も学ぶことができました」と、頑張りをたたえています。

統計データ分析
コンペティションで
審査員奨励賞

高校情報システム部に所属する情報科学科2年の塚田梢太さんが、総務省などが主催する統計データ分析コンペティション2022で、審査員奨励賞(高校生)を受賞しました。同コンペティションは、高校生、大学生を対象に、地域別

の統計をまとめたSSDSE(データサイエンス教育のための汎用素材として作成・公開している教育用標準データセット)を用いた統計データ分析の論文を募集し、そのアイデアと解析力を競うものです。塚田さんの受賞論文は「増減数から見るうつ病の要因」と題し、うつ病の要因を解明して社会に対する提言を行うことを目的としています。

論文では、うつ病の原因の1つである「ストレス」に着目し、うつ病患者が増加している地域の特徴から、はじめに相関分析を行いました。うつ病の要因と考えられる指標を大まかに特定し、それらとうつ病との因果関係を明らかにするため、さらに重回帰分析を行いました。

その結果、うつ病の増加要因として「転入者数」「交通・通信費」「娯楽費」「減少要因」として「消費支出」が挙げられるとし、結果を踏まえた提言として、リモートワークの拡大や家計簿をつけることなどを提案しました。

クラブ活動報告

※学生・生徒の所属・学年は取材当時のものです。



鈴木颯 吉山僚一



持田陽向 吉山和希

(写真は、いずれもITTF提供)

12月4～11日にチュニジアで開催されたITTF世界ユース選手権チユニス大会に学園の4選手が出場し、団体戦3位、個人戦準優勝など優秀な成績を収めました。

学園卓球部 卓球世界ユース選手権で学園の選手が活躍

団体のメダルを獲得したのは、中学の吉山和希(3年)と持田陽向(2年)が出場した15歳以下男子団体戦。準決勝で優勝チームとなる中国と対戦し、1番の吉山が勝利しましたが後が続かず1-3で敗れ、3位となりました。高校の鈴木颯(3年)と吉山僚一(3年)が出場した19歳以下男子団体戦は、準々決勝でフランスに敗れベスト8でした。

第18回全日本学生選抜卓球選手権大会Ⅱ全日学選抜Ⅱ(11月26～27日・北海道の苫小牧市総合体育館)で、大学卓球部がアベック優勝を飾りました。男子は谷垣佑真(1年)、女子は岡田琴菜(2年)が、ともに初優勝しました。

大学卓球部 全日学選抜でアベック優勝!

全日学選抜は、全日学の個人・団体と並び、大学卓球の頂点を決めるシングルスのみ大会です。男子は、強豪・明治大の2選手らを倒して勝ち上がった谷垣が、決勝で明治大の松田歩真選手と対戦。勢いのまま4-0でストレート勝ちしました。女子は、全日学3位の岡田が、決勝



アベック優勝を飾った谷垣佑真と岡田琴菜(写真は卓球レポート提供)



初優勝の本学卓球部 (写真はニッタクニュース提供)

大学卓球部 全日本卓球選手権大会男子団体で初優勝

実業団・大学・高校などの強豪チームが競う2022年全日本卓球選手権大会(団体の部)は10月14～16日、あいハウジングアリーナ松元(鹿児島市松元平野岡体育館)で開かれ、男子団体で大学卓球部が初優勝を飾りました。

勝を決めました。

名電高校専門学科 3年生が課題研究の成果を発表

名電高校情報科学科・科学技術科の3年生がこの1年、テーマごとにグループに分かれて取り組んだ課題研究のうち、優秀と評価された7グループが1月12日に高校喬徳館でプレゼンテーションを披露しました。



喬徳館で行われた全体発表会

- ・「ドローンの輸送(着陸)に関する研究」(電気)
- ・「[検証] 金属の特性をコマ回しで学ぶ! ものづくりの際のポイント!」(機械)
- ・自動給電式自動走行車の研究(電気)
- ・「学校における防災・減災活動」(土木工学)
- ・「自動運転と都市・自動運転の一括制御」(情報科学)
- ・「児童図書館の計画」(建築)
- ・「未来につながるプラスチックについて」(応用化学)

スで行われた課題研究発表会(188人が45テーマで発表)で、審査に当たる大学教員から高い評価を受けました。喬徳館では専門学科全学年の生徒たちの前に立ち、多分野にわたる研究の成果などをプロジェクトを使って堂々と発表。1、2年生は「自分たちの課題を決める参考に」と真剣に聞き入っていました。

専門学校で交通安全講演会

専門学校は10月19日、豊田署交通課の木野裕将巡査部長を講師に招き、1年生を対象にした交通安全講演会を開きました。



事故防止を呼び掛けた交通安全講演会

木野巡査部長は、「夕方の暗さが増す秋口～年末にかけて特に気をつけてほしい」と、歩行者に明るい服装と反射材の着用を、ドライバーに早めのライト点灯とハイビームの活用を呼び掛けました。

専門学校ニュース

Vocational College NEWS

者に明るい服装と反射材の着用を、ドライバーに早めのライト点灯とハイビームの活用を呼び掛けました。続いて、「自転車に乗るならヘルメットを着用し、自転車保険への加入を」などと身を守るための心構えを説き、豊田署管内などで起きた事故の具体例について説明しました。

編入学の学生たちを激励

専門学校から今春、大学への編入学を予定する学生たちが1月13日、飯吉僚校長の激励を受けました。



激励会に出席した学生たち

なっています。他大学へは中部大学に3人、大同大学に2人、日本福祉大学に1人が編入します。

学園●卓球部 全日本卓球・ジュニア男子で萩原啓至が初V

東京体育館で1月23～29日に開催された全日本卓球選手権大会で、萩原啓至(高校2年)がジュニア男子シングルス初優勝を飾りました。同種目で坂井雄飛(高校1年)と吉山和希(中学3年)が3位入賞するなど、今年の全日本でも学園の選手たちが優秀な成績を収めました。

学園の3選手がベスト4に名乗りを上げたジュニア男子シングルスは、坂井との同土討ちを3-2で制した萩原が、優勝候補と目される松島輝空選手(木下アカデミー)と決勝で対戦。フルゲームの熱戦の末にジュースを持ち込んだ最終ゲーム、豪快にフォアハンドドライブを決めて決勝



ジュニア男子シングルス優勝の萩原啓至

点をもぎ取りました。

学園の選手たちは、男子シングルスで篠塚大登(大学1年)が3位、吉山僚一(高校3年)と田中佑汰(大学4年)がベスト8。学園出身の曾根翔選手(T・T彩たま)も3位入賞しました。混合ダブルスでは田中佑汰が姉の田中千秋選手(豊田自動織機)とペアを組み、準優勝しました。

このほか、男子ダブルスで横谷晟(大学2年)・谷垣佑真(大学1年)組がベスト8、混合ダブルスで谷垣佑真・岡田琴菜(大学2年)組と篠塚大登(JOCエリートアカデミー)の木原美悠選手とペア)がベスト8の成績を収めました。



男子シングルス3位の篠塚大登(写真はいずれもニッタクニュース提供)

高校●バレー部 春校バレーに18回目の出場

高校バレーボール部は、春の高校バレー愛知県予選決勝(11月23日)で大同大学大同高校にセットカウント3-1で勝利し、3年ぶり18回目の本戦出場を決めました。1月4日から東京体育館で開催された第75回全日本バレーボール高等学校選手権大会(春の高校バレー)では、2回戦で長崎県代表の大村工業高校と対戦し、セットカウント1-2(25-21、25-27、21-25)で惜敗しました。

大会を振り返り、北川祐介監督は「けがで中心選手が欠場する中、3年生を中心によくまとまり、全国屈指の強豪校である大村工業高校を相手に名電らしい粘り強



いバレーを展開しましたが、あと二歩のところで勝利を逃しました。生徒・保護者・教職員をはじめ、学園関係者の方々の多大なるご声援に感謝いたします。次の大会からは新チームとなり、全国大会上位を目指して生徒と共に練習に励みます」と話しています。

中学●卓球部

全日本選手権(カデットの部)14歳以下で持田が初優勝

JOCジュニアオリンピックカップ2022年全日本卓球選手権大会(カデットの部)は10月28～30日、奈良市中央体育館で開催され、中学卓球部の持田陽向(2年)が14歳以下男子シングルスで初優勝しました。このほか13歳以下男子シングルスで郡司景斗(1年)が準優勝し、男子ダブルスで郡司景斗/月原弘暉(1年)が準優勝しました。



持田陽向(写真はニッタクニュース提供)

大学●卓球部 全日学で男子単の田中と女子複の谷渡/信田が初優勝

10月20～23日に滋賀県YMERTアリーナで開催された第88回全日本大学総合卓球選手権大会(個人の部)で、大学卓球部は男子シングルの田中佑汰(4年)と女子ダブルスの信田ことみ(3年)/谷渡亜美(同)が、ともに初優勝を飾りました。このほか、男子シングルの横

谷晟(2年)と女子シングルの岡田琴菜(2年)が、それぞれ4強入りしました。男子シングルの田中は、準決勝で横谷との同土討ちを制し、決勝で中央大学の小野寺翔平選手と対戦。第1ゲームを落とすも、強力な両ハンドを武器にし、4-2で念願の個人

戦タイトルを手に入れました。女子ダブルスでは、接戦の連続の中を勝ち上がった信田/谷渡ペアが、決勝でも東京富士大学の千葉菜月選手/泉田朱音選手を相手に抜群のコンビネーションを発揮。フルゲームの戦いの末、初の全国タイトルを獲得しました。



男子シングルス初優勝の田中 女子ダブルス初優勝の信田ことみ(左)/谷渡

学園 高校吹奏楽部を学園表彰

学園は12月13日、第70回全日本吹奏楽コンクール(10月23日・名古屋国際会議場)で金賞に輝いた高校吹奏楽部に対し、学園表彰を行いました。名古屋電気学園愛名会、高校同窓会からお祝いがありました。

44回目の出場(高校部門全国最多)を果たした今大会では、自由曲に選んだ「森の贈り物」で光と命に満ちあふれる森の情景を瑞々しく演奏し、会場を大きな感動に包みました。

3年生部員は、世の中がコロナ禍に巻き込まれた2020年春の入学です。練習や活動が最初から思うに任せない中、「工夫と努力を重ねてそれぞれの音を磨き上げました。表彰は、南校舎の多目的ホールで行い、荻原哲哉校長が



サプライズプレゼントのケーキを囲んで笑顔の生徒ら

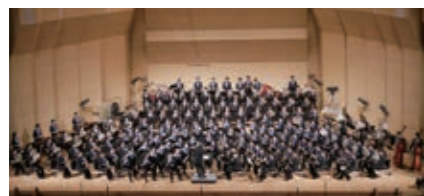
「3年分の思いがこもった演奏でした」と部員たちの努力をたたえました。これにこたえ、伊藤宏樹顧問が「緊張の中、子供たちは、最後の演奏をみんなで楽しもう」という雰囲気を出してました。これも勉強と部活の両立ができる素晴らしい環境があったからです」と、お礼を述べました。部長の武藤りささん(3年)も「全国大会がゴールでなく、最後の定期演奏会まで頑張っていきたい」と笑顔で誓いました。

この後、後藤泰之理事長から届いたサプライズプレゼントの幕が取り外されました。大会当日に撮影した記念写真をプリントした特大のケーキで、部員たちから「わーっ」と歓声が上がりました。

高校●吹奏楽部 高校吹奏楽部の第58回定期演奏会

学園が主催する高校吹奏楽部の第58回定期演奏会が、1月7日夜と1月8日昼・夜の3公演体制により、名古屋国際会議場センチュリーホールで開催されました。プログラムは、伊藤宏樹顧問らの指揮による全4部構成。3公演ごとに、少しずつ変化を持たせて名電サウンドを届け、延べ6500人の聴衆を魅了しました。

8日昼の公演は、後藤泰之理事長の挨拶に続き、全日本マーチングコンテスト銀賞受賞チームによる勇壮なステージドリルで幕開け。金賞に輝いた全日本吹奏楽コンクールでの課題曲「ジェネシス」、自由曲「森の贈り物」や、手作りミュージカル「リメンバー・ミー」、スタジオジブリメドレーなどを次々と披露しました。同公演には、著名な作曲家の鈴木英史氏が客演指揮に訪れ、自由曲「ジェネシス」などでタクト



感動を届けた第58回定期演奏会



部員手作りのミュージカル「リメンバー・ミー」

愛知工業大学
第6回羽倉賞奨励賞



CGメディア研究室
大学院博士前期課程2年
安素羅さん
情報科学科
水野慎士教授

「移動する車を用いた立体的なプロジェクションマッピング」で受賞

愛知工業大学
国際会議「CANDAR 2022」で優秀論文賞



電気学科を2022年春卒業
デジタルシステム研究室
大矢龍聖さんほか

「真性乱数生成器のための即時的な乱数検定回路の高位合成による実装」で受賞

愛知工業大学
建築設備士の日記念学生コンペで佳作



建築学科4年 環境・設備研究室
鈴木瑛海さん 熊田光里さん 勝田みのりさん 森岡愛さん 高木緑さん

「海から街へつなぐエネルギー」で受賞


愛知工業大学
電子情報通信学会通信ソサイエティ活動功労賞



情報科学科
内藤克浩准教授

通信ソサイエティでの活動により学術交流活性化に寄与

愛知工業大学
日本建築学会設計競技でタジマ奨励賞



建築学科の「都市計画・まちづくり研究室」から参加した
4年生2チーム
「雨奇晴好 水害とともに生きる建築」(院南汐里さん、久保壮太郎さん、笠原梨花さん、丹羽葉々美さん)＝同テーマでU30復興デザインコンペ優秀賞も受賞
「熟成する団地―老いを受け入れ地域と共に生きる暮らし―」(後藤由紀子さん、五家ことさん、服部楓子さん、明星祐未さん)

愛知工業大学
ナノコン応用コンテストでナノコン応用賞



情報科学科3年
西宮銀河さん 松田雄飛さん 筒井捷太さん
「誰でも給餌君」で受賞
いづれもモバイルコンピューティング研究室

情報科学科3年
山口隼さん 渥美岳大さん 後藤和真さん 矢倉聖聖さん
「調味料残量可視化できる蔵」で受賞

愛知工業大学
第20回日本流体力学会中部支部講演会で学生優秀講演賞



大学院博士前期課程1年
高速空気力学研究室
鶴田朋久さん

「超音速空気アークプラズマ気流の特性調査」で受賞

愛知工業大学
東海体育学会第69回大会でダブル受賞



大学院博士後期課程3年
身体情報科学研究室
武山祐樹さん

「BMI変動に伴う身体情報の位相変化の標準化:若年男性の解析」で学術奨励賞
「Phase angleを用いた高齢者のヘルスマネジメント」で優秀発表賞


愛知工業大学
F.E.試験(The Fundamentals of Engineering exam)*に合格
*エンジニアの資格として国際的に評価の高い米国の「P.E.(Professional Engineer)」の一次試験



大学院博士前期課程2年
中村知裕さん 渡辺素己さん

※本学から12人目と13人目の合格者

愛知工業大学
日本地震学会賞



地域防災研究センター
入倉孝次郎
客員教授

「強震動予測手法の開発と展開」の業績により受賞

愛知工業大学
RCJ信頼性シンポジウムで奨励賞



大学院博士前期課程2年
電気電子材料研究室
鈴木洋陽さん

「二流体スプレー洗浄時に発生する静電気発生への要因分析」で受賞

愛知工業大学
学生ハッカソン「Hack Aichi +2022」でCKD株式会社・企業賞



情報科学科3年
伊藤和輝さん 柴田淳さん 高木健路さん
翻訳チャットアプリ「コミュチャ」で受賞

愛工大名電高校
第3回学力向上アプリコンテストで一般投票賞



情報科学科2年
情報システム部
町田渉さん

「まじもタイマー～多機能な勉強タイマー～」で受賞

愛知工業大学
成形加工シンポジウム'22で優秀ポスター賞



大学院博士後期課程2年
高分子化学研究室
廣瀬威仁さん

「セルロースナノファイバー分散PP/EPDM動的架橋熱可塑性エラストマーの力学物性」で受賞

愛知工業大学
日本経営診断学会第55回全国大会で大学院生(社会人部門)優秀賞・研究奨励賞



大学院博士後期課程1年
MOT技術経営研究室
渡邊豊之さん

「知的財産の信託による特許権利化戦略の分析」で受賞

愛知工業大学
電気学会電力・エネルギー部門大会でYOC各賞



電力システム工学研究室(七原研)に所属する大学院博士前期課程
1年の3人
山田康輝さん「インバータ電源大量導入時における電力損失-無制限特性改善-制御周波数母線系統に対する分割制御性能に及ぼす影響の分析」でYOC奨励賞
青木祥さん「電力系統の経済負荷配分制御の特性改善-制御周波数Virtual Oscillator Controlインバータの動作解析」でYOC奨励賞
伊坂悠吾さん「系統周波数低下時におけるVirtual Oscillator Controlインバータの動作解析」でYOC奨励賞

愛知工業大学
秋季ばね及び復元力応用講演会で優秀ポスター賞



大学院博士前期課程1年
機能材料研究室
松田樹さん

「超音波ショットピーニングと機械的研磨の組合せによるTiNi形状記憶合金の腐食疲労寿命改善」で受賞

愛知工業大学
日本財団福祉のデザイン学生コンペで入選



建築学科4年
住・商空間デザイン研究室
青木優花さん

「気づいたら、ここに居た-まちの中に当たり前存在する第3の居場所-」で受賞

愛工大名電高校
愛知県警から感謝状

情報デザイン部

大麻の乱用防止を呼び掛ける子ども向けアニメーションの制作で

情報デザイン部とメディアコミュニケーション部

痴漢や盗撮の被害撲滅に向けた県警鉄道警察隊のメッセージ動画の制作で

愛知工業大学
電気設備学会全国大会で優秀発表賞



大学院博士前期課程1年
電力システム工学研究室(七原研)
山田康暉さん

「インバータ電源大量導入時における力率制御が電力系統の送電損失に与える影響の分析」で受賞

愛知工業大学
電気設備学会全国大会で優秀発表賞



大学院博士前期課程2年 電力システム工学研究室(雷田研)
池田和樹さん 倉橋潤さん

池田さんは「直流給電用AC/DCコンバータの入力電流高調波に関する検討」で受賞
倉橋さんは「太陽光発電装置でのアーク故障時に発生する高周波ノイズの電極間距離および電流依存性に関する実験的検討」で受賞

愛知工業大学
日本災害情報学会の学会大会で優秀発表賞



大学院博士前期課程2年
松原みなみさん

「小中学校における防災学習の家庭防災への効果-防災研究会『学防ラボ』の活動を通して-」で受賞

愛知工業大学
建築設備士の日記念学生コンペで佳作



電気学科4年
電力システム工学研究室(雷田研)
長谷川壮良さん


「太陽光発電を最大限利用した『電力の地産地消』」で受賞

愛知工業大学
電気学会電力・エネルギー部門大会でYOC奨励賞



大学院博士前期課程2年
池田和樹さん
「特殊巻線構造変圧器を用いたAC-DCコンバータにおける一次側交流電圧瞬時低時の直流側への影響に関する検討」で受賞
大学院博士前期課程1年
田中蒼さん
「直流給電時における突入電流抑制方法の一検討」で受賞
いづれも電力システム工学研究室(雷田研)

※学生の所属・学年は取材当時のものです。

愛知工業大学	愛知工業大学名電高等学校	愛知工業大学名電中学校	愛知工業大学情報電子専門学校
 <p>豊田市八草、名古屋自由ヶ丘にキャンパスをもち、3学部7学科14専攻と大学院2研究科を有する工科系総合大学です。「自由・愛・正義」の建学精神の下、1959年に開学して以来、学生のチャレンジ精神を全面的にバックアップし、ものづくり産業の第一線で活躍できる人材を育成しています。</p> <p>ホームページはこちら▶</p> 	 <p>愛知工業大学を軸に国立や難関私立大学を目指す普通科(特進・選抜コース、普通コース、スポーツコース)と、愛知工業大学各専攻と連携した「STEAM教育」を行う科学技術科・情報科学科があり、自分に合った学科・コースで学習します。最先端の学びにふれる授業に加え、ハイレベルな部活動も人間形成の一助になっています。</p> <p>ホームページはこちら▶</p> 	 <p>主要科目の時間をたっぷり取り、私立校ならではのバラエティ豊かな副教材を併用して、6年間をフルに使ったカリキュラムで学力を養成する「男女共学中高一貫校」です。学内にとどまらず、中高大の学園ネットワークを活かし、教科書の範囲を超えた授業で自然科学に対する興味関心を高めます。</p> <p>ホームページはこちら▶</p> 	 <p>豊田市や地元企業からの要請に応え、優秀なコンピュータ・エンジニアを育成するために1992年に誕生しました。学生に資格と技術者としての実力、誇りを獲得してもらうため、専任の教授陣に加え、産業界のエキスパートを講師に迎えています。単位制を導入し、大学への編入学にも対応しています。</p> <p>ホームページはこちら▶</p> 

Information

愛知工業大学	名電高等学校	名電中学校	情報電子専門学校
<p>卒業証書・学位授与式</p> <p>3月23日(木) 時間/10:00~(開場9:00頃) 式場/八草キャンパス 鋸徳館(兼体育館)</p> <p>入学式</p> <p>4月6日(木) 時間/10:00~(開場9:00頃) 式場/八草キャンパス 鋸徳館(兼体育館)</p> <p>最新の情報はホームページでご確認ください▶</p>  	<p>卒業証書授与式</p> <p>3月1日(水) 時間/10:00~ 式場/喬徳館</p> <p>入学式</p> <p>4月5日(水) 時間/10:00~ 式場/喬徳館</p> <p>最新の情報はホームページで又は、高校へお問い合わせください。</p>  	<p>卒業証書授与式</p> <p>3月15日(水) 時間/10:00~ 式場/淳和記念館</p> <p>入学式</p> <p>4月5日(水) 時間/9:00~ 式場/淳和記念館</p> <p>最新の情報はホームページで又は、中学校へお問い合わせください。</p>  	<p>卒業証書授与式</p> <p>3月17日(金) 時間/10:00~</p> <p>入学式</p> <p>4月7日(金) 時間/10:00~</p> 

※時間等変更になる場合があります。

Schedule 2023年3月~5月

※新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、スケジュールは変更になる場合があります。詳細については、各設置校へお問い合わせください。

	愛知工業大学	名電高等学校	名電中学校	情報電子専門学校
3月	3日 【入試】後期日程M方式 7日 【入試】名電関係入試 23日 卒業証書・学位授与式	1日 卒業証書授与式 2日 学年末考査(~7日) 20日 終業式	1日 卒業証書授与式(高校) 2日 学年末考査(~6日中学)(~7日高校) 15日 卒業証書授与式(中学) 20日 終業式	7日 【入試】5次一般 17日 卒業式 20日 【入試】6次一般
4月	入学式	入学式 遠足	入学式 修学旅行(3年) 遠足(1・2・5・6年) イングリッシュキャンプ(4年)	入学式 オリエンテーション、健康診断 編入説明会
5月		健康診断 中間考査	授業参観 中間考査	